

Contents

- ◆「腫瘍センター News」創刊にあたって
- ◆がんの最終診断は誰の仕事?

- ◆当院の放射線治療システムのご紹介
- ◆抗がん剤の種類と作用機序のお話
- ◆勉強会の開催報告と今後の行事予定

「腫瘍センター News」創刊にあたって

腫瘍センター センター長 山田 好則



北里研究所病院では、本年4月に腫瘍センターが本格的な活動を開始いたしました。新たに策定したがん診療基本方針の下、手術療法、化学療法、放射線療法、緩和ケア、局所療法、免疫療法を組合わせた集学的治療をチーム医療で行います。また、腫瘍センター外来も始まりました。

このたび、「腫瘍センター News」(季刊誌)が刊行されることとなりました。東京都認定がん診療病院としての活動など、当院のがん診療についての情報をお知らせするほか、がんに関するさまざまな話題、新たな知見や国の施策等についてもお伝えします。最近の大きな News は、去る6月8日、5年ぶりに更新された「がん対策推進基本計画」が閣議決定されたことです。

「腫瘍センター News」創刊号では、すべてのがん診療の要である「病理診断」について、病理診断科の森永正二郎部長からの話題提供をお届けします。裏面には放射線科と薬剤部からの情報提供と腫瘍センターからのお知らせです。これからも役に立つ情報提供を行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。



がんの最終診断は誰の仕事?

病理診断科 部長 森永 正二郎

あなたが仮に、おなかの調子がよくなくて病院を受診し、あるいは人間ドックを申し込んで、胃の内視鏡検査を受けたとします。そのとき、内視鏡施行医から、「念のため組織を少し取って調べます(これを生検といいます)」といわれるかもしれません。そして数日後、結果を聞きに再受診したところ、主治医から、「実は検査の結果はがんでした」、あるいは「特に悪いところはありませんでしたよ」と告げられたとします。その場合に、「がん」があるのかないとかいう最終的な判定をしているのはいったい誰だかご存知でしょうか。それは内視鏡施行医でも主治医でもありません。病理医(または病理診断医ともいいます)という特殊な医師が、つまみ取られた組織を顕微鏡で見て診断を行っているのです。これを病理診断といいます。そしてその病理医の報告を受けた主治医が、今度はあなたに結果を説明しているのです。

また、あなたが仮に、胃がんと診断されて胃の切除手術を受けたとします。そして外科の主治医から、「取った組織を調べたら、早期のがんでした。リンパ節転移もなく、全部取りきれたので、もう安心です」と告げられたとします。その場合に、がんが早期かどうか、リンパ節転移があるかどうか、完全に取りきれたかどうかなどを顕微鏡で観察し、最終的に診断するのも病理医の仕事なのです。

ここにあげた例は、病理医の仕事の一部に過ぎません。がん以外の全身の病気の病理診断をするのも病理医です。

病理診断を行う病理医(パソロジスト、pathologist)は、欧米では一般市民にもよく知られた医師の一専門分野ですが、残念ながら日本ではほとんど知られていません。現在、日本全体で、病理専門医の数はたったの約2000人。全医師数の0.8%です。人口10万人当たりの病理医数は米国の1/5に過ぎません。これだけの人数で、全国の医療施設の病理診断が行われているのです(恐ろしい話です!)。がん診療拠点病院ですら、常勤病理医不在の施設が13%もあります。マスコミでは小児科医や産婦人科医、麻酔科医の不足ばかりが取り上げられていますが、病理医不足の実態はもっと深刻です。病理診断ががんの診療の根幹を握るきわめて重要なものであることはご理解いただけると思います。全国でがんの医療が適切に行われるためには、量的にも質的にも十分な病理医が確保されることが必須です。このことを、患者さんや一般市民もよく知ってほしいと思います。



森永正二郎：東北大学医学部卒、国立がんセンター研究所病理部、東京都済生会中央病院病理科、自治医科大学病理学教室を経て、平成14年より現職。専門領域は人体病理学全般、腫瘍病理診断学全般、頭頸部腫瘍、肺・縦隔腫瘍、泌尿生殖器腫瘍など。主な著書には、組織病理アトラス、唾液腺腫瘍アトラス、外科病理学、原発不明がんなど。

当院の放射線治療システムのご紹介



放射線治療装置

がんの治療には、大きく分けて手術療法、化学療法、放射線療法などがあります。その中で放射線療法はがん細胞のDNAに放射線を照射することによりがん細胞の増殖を抑え、がん細胞を死滅させる治療方法です。また最大の利点として身体の外観や機能を温存できる可能性が高いことが挙げられ、「がんを切らずに治す」ということで広く認められるようになりました。

当院では今年4月より放射線治療装置の更新をいたしました。このたび導入された放射線治療装置のご紹介をさせていただきます。

新しい放射線治療装置の最大の特徴は放射線治療装置に画像撮影装置を搭載している点です。患者さまが治療装置のベッドに寝たままX線撮影やコンビームCT撮影をおこない、撮影された画像より二次元・三次元的に照射位置の補正が可能になり、体内の腫瘍に対して数ミリの誤差内で照射ができます。正常な組織にはなるべくダメージを与えず腫瘍に高線量を照射できる高精度・高線量放射線治療が可能となりました。

これは画像誘導放射線治療（IGRT）と呼ばれ、呼吸により腫瘍が移動する場合にも威力を発揮します。これらの放射線治療はもちろん外来での治療が可能で、副作用が少なく、患者さまのからだに負担の少ない放射線治療がおこなえます。

新しい放射線治療装置を導入した事により少しでも患者さまの治療に貢献できる事を期待します。

第4回「腫瘍センター勉強会」を開催しました。

各種がんに関する勉強会を定期的で開催しており、5月に開催した肺がんの勉強会には、多数の医療機関の先生方にご参加いただきました。当日は、『肺がん検診のエビデンス』（竹下 啓 北里研究所病院 総合内科部長）と『早期肺がんの胸腔鏡下手術』（伊豫田 明 北里大学医学部 呼吸器外科学 准教授）について講演しました。今後もさまざまなテーマを取り上げ開催する予定です。



第2回『がんについて語るつどい』を開催しました。

今回は、抗がん剤とお食事について、医師・看護師・管理栄養士からの講演の後、患者さまとご家族の疑問や体験談を語り合いました。

当院を受診している患者さまとご家族を対象に、今後も定期的で開催する予定です。

次回は、年明けに緩和ケアをテーマに開催できるよう、準備しております。

くすりの話

抗がん剤の種類と作用機序のお話

この度「腫瘍センターNews」刊行にあたり、がんにかかわる様々な「くすりの話」をお届け致します。第一弾として、抗がん剤の成分のお話です。

現在さまざまな抗がん剤が開発されておりますが、実は我々のまわりにある身近なものから作られているものがあります。いくつか紹介いたします。

植物由来では、ニチニチソウ由来で白血病や悪性リンパ腫などに用いられるビンクリスチン、乳がん、肺がんなどに用いられるビンレルビン、イチイ由来で乳がんや卵巣がん、肺がん等に用いられるパクリタキセル、ドセタキセル、またカンレンボク由来で胃がん、大腸がん、肺がん等に用いられるイリノテカン、ポドフィルム根由来で肺がん、悪性リンパ腫等に用いられるエトポシド等があります。

また、海の生物では海綿由来で白血病などに用いられるシタラビン、最近乳がんに使われるようになったエリブリン等があります。

土の中の微生物である放線菌から創られるものとしては乳がん、胃がん等に用いられる、ドキシソルピシン、マイトマイシンCなどがあります。

薬剤部 齋藤 雅俊

行事予定

★★ 一般市民向け ★★

●市民公開講座

日時 平成24年10月28日(日)

内容 『乳がんの早期診断と検診について』

会場 薬学部コンベンションホール(白金キャンパス内)

※詳細につきましては、9月上旬より当院のホームページへ掲載する予定です。

★★ 医療従事者向け ★★

●がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会

日時 平成24年10月6日(土)13時00分から20時00分(予定)

平成24年10月13日(土)13時00分から20時00分(予定)

会場 本館2階 大会議室(白金キャンパス内)

修了証書 2日間の参加が条件となります。

問い合わせ先 教務課 03(3444)6161【代表】

※申込方法等、詳細につきましては、当院のホームページをご覧ください。

●看護職のためのエンド・オブ・ライフ・ケア研修会ELNEC-J

日時 平成24年11月10日(土)9時00分から17時15分

平成24年12月1日(土)9時00分から17時15分

会場 本館2階 大会議室(白金キャンパス内)

修了証書 2日間の参加が条件となります。

問い合わせ先 教務課 03(3444)6161【代表】

※申込方法等、詳細につきましては、8月下旬より当院のホームページへ掲載する予定です。

腫瘍センター News Vol.1 (創刊号) 平成24年8月1日発行

北里大学北里研究所病院

東京都港区白金5-9-1 TEL 03(3444)6161【代表】

編集責任者 腫瘍センター センター長 山田 好則

<http://www.kitasato-u.ac.jp/hokken-hp/>